

教育学・心理学

keyword

- 学級経営
- 生徒指導
- 算数・数学科
- 授業改善



畑 稔彦
Naruhiko Hata

大学院高度教職実践専攻
准教授

【プロフィール】

- ・1991年 滋賀大学教育学部 卒業
- ・1991年 県内公立中学校 教諭
- ・2006年 滋賀県総合教育センター 研究員
- ・2008年 同 研修指導主事
- ・2010年 滋賀県教育委員会事務局 学校教育課 指導主事
- ・2015年 県内公立中学校 教頭
- ・2017年 滋賀大学 准教授

【主な社会的活動】

県内小中学校 校内研究会 講師

【代表的な研究テーマ】

□ 学級経営・授業改善（算数・数学科）に関する実践的研究

課題解決に役立つシーズの説明

学級経営と算数・数学科の授業改善について、実践をもとに提案しています。

【1】生徒の豊かな人間関係づくりをめざした実践研究

—学級経営、生徒指導、道徳教育からのアプローチ—

問題行動が絶えない学校現場で、教科指導はもちろん生徒指導面にも力を入れ、生徒の心の中にある良識を呼び起こすために、「以前からあった価値観」を否定し、教師が常識を語っていった。芽生えはじめた生徒の良識を学級通信に載せ、紙上交流というかたちで「いいことはいい、悪いことは悪い」という学級の世論を育てると同時に、一人ひとりのよいところを見つけ、他者に学ぶという姿勢を育てるといった願いから、「感じて動く＝誠意あふれる行為」ということを折に触れ語り、学級通信にも掲載してきた。生徒との距離も近くなり、教師の思いをくみ取り前向きな姿勢で授業や毎日の生活を送るようになった。

2015 滋賀大学大学院教育学研究科 教職実践研究 第1号

【2】自ら考える力を育成する算数科の授業づくり

—問題解決をとおして、算数のよさに気付く授業のあり方—

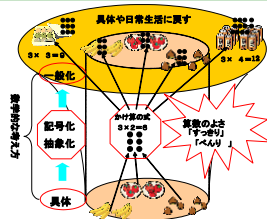
日常生活との関連を図りつつ、問題解決をとおして、算数のよさに気付く授業の在り方を探った。その結果、考え方を交流させる中でよりよいものにふれさせ、その考え方のよさを共有できるように授業を展開することは、学習内容の確かな意味理解や意欲的に追究していこうとする姿を生み出すことにつながり、自ら考える力を育成することに効果的であることが分かった。あわせて、本実践を通して、児童が関心をもつような教材の提示の仕方や、一人が見つけたよさを全体に広げ、共有させるための手立てを工夫することが、大切な授業力であることが分かった。

小学校第2学年算数科授業力アップ DVD・解説書 県総合教育センター

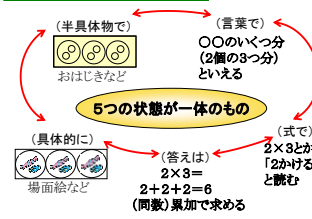
2年生の「かけ算」を取り上げている。乗法九九は、以後の学年で取り扱われる乗法の計算における基礎的な技能として欠かさないものである。一方で、問題解決において、演算決定が正しく行われるためには、九九を唱えることができるだけでなく、乗法の意味について理解し、活用できるものにしておかなければならない。そこで、児童自らが算数のよさに気付くことで、内容の意味理解を深めることをねらいとした授業の実践と授業づくりについてまとめている。

滋賀県総合教育センター研究紀要第49集

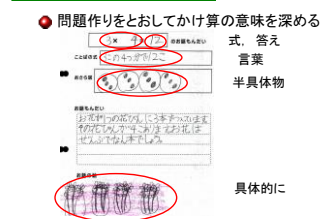
思考の高まり(具体→抽象→具体や日常生活)から



かけ算の意味について



かけ算の意味について



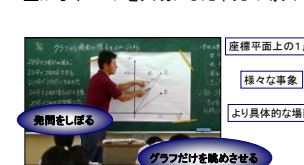
【3】全国学力・学習状況調査から探る学習指導の在り方

—算数・数学の有用性を実感する数量関係の学習—

数量関係の学習において、実生活における様々な事象と関連させ、数学的に解釈したり、表現したりする学習を通して、算数・数学の有用性を実感する授業の在り方を探った。その結果、日常的な事象を考察する中で、関数の考えを活用し、表・式・グラフで表現するよさに気付く学習展開の工夫が、子どもの意欲的な学習を促し、算数・数学の有用性を実感させるのに有効な手だてであることが分かった。あわせて、本実践を通して、一人ひとりのつづやきを大切に、他の児童生徒の考え方や誤答から学ぶ場面を設定して授業を展開することが、意欲的に学習する集団をつくり、子どもの表現力を高めることが確認された。

滋賀県総合教育センター研究紀要第50集

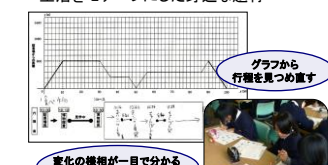
豊かなイメージを大切に単元の導入



生活をモチーフにした身近な題材



生活をモチーフにした身近な題材



企業・自治体へのメッセージ

算数・数学に関する共同研究を希望します。